

会議等結果報告書

会議区分	会議 ・ 打合せ ・ 協議	文書番号	259
		決裁期日	平成21年12月18日
名称	上富良野町協働のまちづくり推進準備委員会（第12回）		
日時	平成21年12月17日（木） 午後6時30分～午後9時7分		
場所	保健福祉総合センター2階研修室		
出席者	委員11人 町民生活課長、事務局2人 合計14名		

内容

〔進行：町民生活課長〕

あいさつ

丸田会長： 12月に入り師走のお忙しいところ、皆さんの出席を賜り厚くお礼申し上げます。ワークショップは5回目の最終として仕上げていきたいと思う。この会議の内容が広報12月号に掲載され、私たちの取り組みが町民に周知されてきた。任期の3月に向けて協力をお願いしたい。

町民生活課長： この会議の中間報告として、その様子を掲載した広報12月10日号を参考として配布する。

議題

1 ワークショップによる討議

テーマ「協働のまちづくりを進めるために、町民・議会・町に期待される役割について」

町民生活課長から、次の点について説明を行う。

- ・今回のテーマの考え方について、資料を基に説明。
- ・ワークショップは今回が最後となる。色々な情報が入り協働のイメージが共有できてきたと思う。今回の皆さんの話し合いの精神を指針に盛り込んでいきたい。
- ・三者が何をどうしたら協働できるのかの話し合いをお願いする。それぞれの構成ごとに意見をまとめてほしい。

各グループに分かれてテーマに関する議論を行い、午後8時10分頃から全体で発表を行った。

Aグループ、Bグループの意見は別紙。

全体での意見交換

佐川委員： 町民、議員が集まる機会を設けることが必要と思う。座談会などは堅苦しくなく親しみがあるようにしたほうがよい。

町民生活課長： 膝を付け合せて議論することが良いと思う。

佐川委員： そのような形の方が本音が出るのではないか。

町民生活課長： これまで三者が同じテーブルで話すことはなかったが、今回の取り組みはよかったと思う。大きなテーマに対して話し合われ、多くの情報を知って共有できたのではないかなと思う。町民の町を思う気持ちをどうまちづくりの力に変えていけるか、その手法があればと

思う。

丸田会長： 町民と議員のギャップがあると思う。議員も町民であり、議員と町民の距離を縮めることができれば、良いまちづくりになると思う。議員は14人と少なくなった。以前はおらが地域の議員であったが、今は町全体の議員になっていると思う。ミニバレー大会に議員もチームを作って出るなど、町民とのふれあいを大切にしようか。

町民生活課長： 自治基本条例の10条から12条は議員に関する条項。町民に知ってもらおう努力から民意を得、議会の議決につながるよう議員からの情報提供も必要と思う。

久我委員： とりあえずやってみることが大切と思う。多世代によるワークショップでまちづくりを話し合うことも良いと思う。

石田委員： 住民会の交付金は3年目。少しずつ使われ方が変わってきているのではないかと思う。どう活用していくか、そのことを役員で話し合うことが事業化につながると思う。手間と時間に資源をかけていくことが、結果として近道になるのではないか。

丸田会長： 交付金は以前は住民会長の手当と想っているところもあった。今は話し合いができてきている。以前は高額の手当もあったが市街地では少額になってきている。

瀬川委員： 議員も職員も町民であり、その意識を無くすこと。手当額で見れば住民会長は年額10数万円、議員は月額15万円ほどでありどうかと思う。

岩田委員： 町民の目線に立って話し合いの機会をつくる必要がある。

瀬川委員： 会議だけでなく、色々な機会に参加することが大切。そこで話しを聞くこと、懇親会では本音が聞ける機会でもある。

石田委員： 懇親会の会費は公費から自己負担へ変わりそのような場が少なくなった。良い意味で情報交換ができる場であった。

大内委員： 幅広い年代の人が話し合うことは新鮮で、この会議の上の年代の方が情熱的だった。中町商店街と清富地区で交流を行い、商店街のイベント支援に合わせて農産物のやり取りを年1回8月下旬に行っている。

丸田会長： 火祭りの寄附は商店街が中心になっているが、町民参加のお祭りとして住民会で寄附の取り組みについて話し合いを行ってきている。良い取り組みは広報でお知らせをお願いしたい。

佐川委員： 8月末にフットパスの全道大会が開催され、議員、職員もボランティアで参加協力いただいた。全道に向けた町の発信機会となり、福祉だけではなくボランティア活動に支援の方策があればと思う。

石田委員： 現在の奨励補助金では団体に広げることも検討した経過がある。公益的な活動に支援することも方策で、町民税1%の枠で取り組み支援する例などがある。

自治推進班主幹： 2月1日に講演会を計画しているので参加をお願いしたい。

2 その他

事務局： 次回は、1月26日火曜日、午後6時30分から、保健福祉総合センターかみんで開催する。

閉 会

[会議終了：21時07分]

グループ：A 座長：北越(欠)、委員：丸田、本田、三島、瀬川、佐川、菊池(欠)、中野(欠)、記録：吉岡

テーマ	課題や問題点・解決策（会議：12月17日）
協働のまちづくりを進めるために、町民・議会・町に期待される役割について	<p>町民</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リーダーやサポートする人が必要 ・町民一人ひとりの「自立・自律・自発」の意識と具体的な行動なくしては行政システムの変革はできない ・町民は協働のまちづくりに積極的に参画してほしいと、町政でピーアールする ・地域内外の様々なつながり ・町民はまちづくりに積極的に関わりを ・参加の意識改革をする ・町民は公共サービスの担い手、参加から協働へ ・町民が先立って取り組める、やってよかったと喜びある、集まって多くの人々と出会いの場が今後さらに大事 ・町民全員が町内会に入る ・この協働のまちづくりが今後どのように町民へ伝わっていくか、三者一体で ・行政の中身を勉強する ・地縁団体等を生かす ・自分たちでできることは自分たちでやる ・「個」を生かす「組織」「組織」を生かす「個」 <p>町</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人的な問題は政治的な問題（障害者、高齢者、病気などで家にいるだけ） ・町民が知る仕組み ・町民が参加する仕組み ・横の連携をしっかりと取る ・町は町民の意向及び地域の実情を的確に調査し町民に公開する ・情報公開の徹底、まずいことこそ公開する ・指定管理者制度、税金の使い道を行政とともに考え実施する ・職員と一般町民との接点を多く作ることをする ・行政は対等の立場を守るような態度と行いを考えていくべき ・町役場の人たちの住民会活動などへの参加 ・職員も町内の一員、積極的に関わりを ・地域のリーダーになりやすい ・地域資源を生かし地域財産を創る ・ボランティアや町づくりに加わる人を財産として下支えするように考えてほしい ・行政、住民会、町内会が連携する ・説得力のあるチラシを作る、町民と行政の協働で <p>議会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・議会基本条例の制定 ・住民会の声を（議員は）知る機会を考えていくべき ・公共領域の開放、事前事後の評価 ・地域の輪ができる ・町政報告会の実施 ・議会は町民の代表として公正で民主的な運営をしてほしい ・議会は町の監視機関として役割してほしい ・議員は現場を見てほしい ・議会の政策立案機能 ・政策提案する議員 ・町民の不平不満を聞くだけでなく自ら足で調べる ・町議でなく住民会長でいい ・町内会長より悪い人がいる ・議員は現場に出ない ・行事に顔を出さない、寸志で終わり ・議員と町民の接点がない ・町民と議員との接点を増やして声を聞く機会を大切にしてい

グループ：B 座長：石田、委員：松浦、持安、渡辺(欠)、久我、岩田、大内、記録：谷口

テーマ	課題や問題点・解決策（会議：12月17日）
協働のまちづくりを進めるために、町民・議会・町に期待される役割について	<p>1．意見交換が活発に行われるまち</p> <ul style="list-style-type: none"> ・街の中に誰でも立ち寄っておしゃべりできる場があればいいな ・地域で今何が必要なのかを考える機会が重要 ・住民一人一人が住みよい町づくりについて意見を言える町 ・職業にかかわらず意見が言い合える ・小さなことでも話し合える絆のある町 ・地域の課題は地域で話し合える町 ・町内会単位での懇談会が必要（町・議会・町民） ・町民それぞれが相手を思いやれる町 ・情報を共有している町 ・町内会づくりに協力してくれる人がいてくれたら <p>2．住民同士の交流が盛んなまち</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たな行政課題の掘り起こし ・街のお祭り、行事は若い人も老人も一緒に楽しめるようになればいいな ・隣近所や町内会の皆さんが仲良く活発に活動するまち ・笑顔の多いまち ・一人一人の顔のわかる町（町内会から） <p>3．助け合いのまち</p> <ul style="list-style-type: none"> ・助け合いのできる町 ・ボランティアの活動をもっと紹介し支援していく ・老人がどこかへ行きたい、何かしたい時にちょっと手伝ってくれる人がいたらいいな ・多世代が交流してお互いに支えあうまち ・自分のためではなく他人のために動く ・元気老人は遊びばかりでなく小さい子どものために何かをしてあげる ・弱い老人を手助けしてあげてほしい ・農家、商業の人が一つになり助け合う町 <p>4．住民が参画するまち</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誰かがやるのではなく、まず自分から行動する ・住み良い町づくりに住民が積極的に参画している町 <p>5．経済が活発なまち（働き場所のあるまち）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・にぎわいのあるまち ・子どもたちが定住できるまち ・高齢者が安心して住み続けられるまち <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・きれいなまち ・役場職員の顔がわかる町 <p>町民の役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内会単位での話し合い場 ・関心を持って積極的に参加する ・町のことに興味・関心を持つ ・隣近所と仲良くする ・町民は自分の町について自覚する（これからも住み続けたい町だから） ・町内会の話し合いや行事を多く企画する ・個々の持っている能力を知る、伸ばす ・NPO 法人がもう一つほしい <p>議会の役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・議会は2-3人の議員で町内会の集まりに出かけて話し合う ・町議会だよりはすばらしい。内容として誰が反対意見を出し誰が賛成したのか町民として知りたい

- ・議員の目から見た地域の取り組み課題や行政について広報する

町の役割

- ・連携や協力のためのコーディネイト
- ・町民の意見を町の事業に反映できる仕組みづくり
- ・町民の意見を聞いてくれる場を設定
- ・情報を共有できる場を設定（町民の要望、町の課題）
- ・情報を収集する機能を高める
- ・公聴機能強化
- ・生活実態の把握
- ・情報を積極的にオープンにする
- ・税金の使途がわかるようにする
- ・NPO ボランティアを支援する仕組み
- ・人材育成に力を入れる
- ・町はリーダー作りに手を貸してほしい
- ・地域担当職員の設置
- ・老若男女が楽しく参加できるワークショップ
- ・小さな話し合いの場の設定（議会・町も参加、意見を反映）
- ・とにかくやってみること